

青森県農協中央会会長賞

おばあちゃん、ありがとう

南小学校（十和田市） 三年 長谷地 惺奈

「おばあちゃん、また作って。」
私はいつもおねがいます。それは、おばあちゃんが作るおもちです。

私の家では、春になると毎年家族みんなで田うえの手伝いをします。私もなわしろという作業で、きかいになえの箱をならべておすかかりです。秋になると、田んぼの中のいねが大きく育ちしゅうかくできます。

「おばあちゃん、もち米まだかな。」

私は、おばあちゃんの作るおもちがとても大好きです。やわらかくてふわふわしています。

でもおばあちゃんは、

「まだだよ。楽しみに待っていてね。」

と言います。そして、私のほかにおもちを楽しみにしている人がいます。それは、ひいおじいちゃんです。ひいおじいちゃんやひいおばあさんは九十六才です。だからおばあちゃんや私は、私とひいおじいちゃんがおもちをのどにつまらせないように、作ったおもちをほうちようで切るときは小さく切ります。おばあちゃんがたくさん作っても、家族みんなで食べるとあつという間におもちがなくなります。私のお父さんは、一度に五まい位食べます。

「もちがあれば、それだけでじゅうぶん」と言います。それを聞いたとき、私はやっぱりおもちが大好きな家に生まれたと思いました。おもちりよう理はいろいろなしゆ類があります。でも作りたてのおもちにきなこをつけて食べるのが私は一番好きです。白いたきたてのごはんは二番目に好きです。

今年の夏休みは、曇りや雨ばかりです。だから、田んぼのようすが私もひいおじいちゃんも気になります。私は、今年も田んぼのいねかりを手伝って、新しいもち米で作ってもらうのが楽しみです。そして、家族みんなでおもちを食べている写真をとって、部屋にかざりたいです。おばあちゃん、次は作るのも手伝うね。いつもありがとう。

